

第6回豊岡市基本構想審議会 会議録（要旨）

開催日時 平成28年11月9日（水）午後3時～午後5時30分
開催場所 豊岡市役所 3階庁議室
出席委員 加藤委員、井垣委員、大槻委員、近本委員、西村委員、土野委員、宮崎委員、
平峰委員、岡本委員、河口委員、河本委員、酒井委員、中川委員、田口委員、
上田委員、中嶋委員
欠席委員 由利委員
傍聴人 なし

1. 開会

2. 会長あいさつ

第6回ですので特にありませんが、アメリカの大統領選も決まったようですので、日本の政治には影響あるでしょうね。

3. 報告事項

(1)市民アンケート結果分析

会長 何かご意見ありますか。お感じになっていることがあれば。

(委員) このとおりにくらいたろうなと思いました。

(委員) 一旦離れるけど戻ってきたいという割合が減っているのは、若者が帰ってこないということなので難しいかも。大事なことです。

(2)次期基本構想について

会長 資料1だけを見てということではなさそうですが、何かお感じになったことがあれば。

(委員) 重点課題をやるというのに異論はないですが、現行の総合計画条例で、「基本構想は、町の将来像を定め、その実現に向けて市民等と行政が連携・協力して、基本的な取り組みを示したもの」としています。基本となる指針ということで、「総合的な」という文言が入っています。重点課題を特出しして、網羅的ではなくても良いですが、体系図のようなものは、最低限入れていくべきではないでしょうか。そのなかで重点課題をということではないかと思います。重点課題だけではそもそも総合的とはいえないと思いますし、そのあたりのバランスが気になります。

会長 次の資料3あたりとも関わってくる内容だと思います。イメージは三角形がスリム化していることをおっしゃっているのではないのでしょうか。資料1、2、3すべてに関わっているので、一旦、すべてご説明いただき、協議事項に入っていただければと思います。

4. 協議事項

(1)豊岡市基本構想における記載イメージ

～ 事務局から説明 ～

会長 事務局のご苦勞が伺えますが、ご苦勞な分だけわかりづらいこともあるので、皆さんからご意見あれば。

(委員) 資料2のなかで、意見があるのが、3番のまちの将来像の「(1)大規模災害からのちを守る」で、自助・共助の部分だけが書かれています。最終的には「皆さんの責任ですよ」というのは良いですが、行政として、土砂災害のデータとかハザードマップとか住民が判断できるような情報を提供する必要があると思います。個人的には豊岡市は他市よりも情報提供してもらっているとは思いますが、そこが書かれていないのがちょっとどうかと思います。

「(7)子どもたちの夢を支える」のところ、来年度から英語教育がスタートし、コミュニケーション能力を高めることが目的ですが、ふるさと教育というのは直接、人口減少対策に直接に結びつくものであり、市長の思い入れがあって挙がっていると思いますが、それでも3点セットだと思います。学校の確かな学力、最低限の決められた教育を受けて、社会に出ていくということ、いじめ・不登校の問題があるんです。それらすべてに共通するのは、特別に支援を要する子どもたちの支援という部分にメスを入れて状況が良くなれば、いじめ、不登校の問題もなくなり、学力も高まってくると思います。

子どもたちの夢を支えるというのも良いですが、それは問題行動を起こす子どもたちにも寄り添うというニュアンスが書いてあれば良いと思っていまう。

会長 せめて体系化をとということでこの項目が出されています。記載内容は現時点での事例ということですか。

事務局 はい、まだ、変わるものと想定いただきたいと思います。

会長 基本姿勢、実現のための重要テーマ、さらに施策と3段階に分かれています。基本姿勢と重要テーマはどう違うんでしょうか。基本的にこれを作っていく姿勢として、市長は政治的な使命からですが、私たちは市民として、いろんな議論を積み重ねながら議論していて、その積み重ねであると思います。ここで議論していることは、我々として積み上げていくというプロセスをたどっていますので、まとめる上では重要だと思います。市長の意思と審議会の議論が合致すればよいですが。

事務局 「自然に抱かれて」というのは、社会があって人があってということでご理解いただければと思いますが、多様性は各部分に関係してくると思います。未来についても同じでして、全体にかかる部分についての理念的なところだと思います。

会長 うまくできていると言ったつもりであるが、この基本姿勢に対応しているんですか。

事務局 対応していません。

- 会長 「基本施策(4)かけがいのない今を大切に、他者を尊重し、挑戦ができるまち」とありますが、これは長くないですか。「挑戦ができるまち」でよいのでは。
- (委員) 何を提案されて、何を議論して欲しいのかが分かりません。枠組みなのか、中身なのか、どちらでしょうか。
- 会長 どちらもだと思います。
- (委員) 資料3から資料2の内容を提案するということでしょうか。それとも1～5に分けて書くということでしょうか。
- 「まちづくりにのぞむ基本姿勢」のなかで、項目がすべてダブっているような気がします。一つの文章にしてしまうような性格のものではないのでしょうか。全体に対する基本姿勢とするのか、項目立てをするのかどちらでしょうか。
- 会長 やや羅列気味ではないかということですね。
- (委員) 3番につながらなくなるので、下手に項目立てしないほうが良いのでは。
- 会長 最初の部分なので分かりやすくしていただきたい。
- (委員) 目指すべき将来像というのが、中身があまり分からない。今まで議論したことがそんなことだったのかと思います。
- 会長 1、3は議論いただいたが、2は今日、何か良いキーワードがいただければと思っています。
- (委員) キーワードか、それとも内容を書くのか、どちらでしょうか。
- ここを見ていると、「経済的に関係なし」とか理念的なものばかり書いてあって、どうなんだろうと思います。
- 事務局 ここは、今の将来像「コウノトリ悠然と舞う ふるさと」それに代わるものを市民の皆さんと共有して、これから12年のなかでこういうまちになる、皆さんとまちづくりを共有できるような、そういったもののニュアンスも含みながら、共通認識ができるような合言葉が必要ではないかと考えています。
- (委員) 2行程度で書き、タイトルという意味ですね。でも、将来像はいらないのですか。
- (委員) 正直、まとまっていないという印象です。将来像が頭にあって、「それに向かっていくための基本姿勢がこれで、そのための施策がこれですよ」としないといけないと思います。重要なテーマの書き方が、大きなテーマから小さなテーマまであり、表現もおかしなところが多いです。そういう風に感じました。
- 会長 そういう意味では、勉強されて作られたと思いますが、レベルというか、同じ言葉が並んでいるところで、テーマという感じがします。もうひと頑張りいただきたいと思います。
- 事務局 たたいていただくことをメインとしています。テーマは5つ、ないしは3つくらいがよいのではということは考えています。
- 会長 広げないと言っている割には7つもあります。
- (委員) 資料2でこういう風に文章化してしまうと、そのことしか訴えないことになります。資料1のこの7点もこれしかないと思うので、これくらいのものを入れ

ていけないといけないのでは。10年間網羅していく必要があるのですが、言葉の強さはあると思いますが、その点が審議だと思います。この資料2についても大交流の実現については、世界的なことを言っていますが、私たちは地域のことを言っています。小学校では町単位で行動し、中学校になって各町のことを思い、高校になって豊岡市全体を学ぶということで、そこまで広げておきながら、大人になった時に、地域コミュニティに戻ってしまいます。子どもたちの世界が広がっているのに、大人は地域コミュニティになってしまっています。それらをつなぐものがないのに、「世界だよ」といきなり言われても、全体の自覚がずれてしまいます。そのあたり言葉的な網羅ができないでしょうか。大交流ってものすごく難しいと思います。

会長 子どもたちの夢と大交流がどういう関係であるのか、地域の経済活動をどう活性化していくのか、ということにつながると思います。本当はそういう紋切り型ではなくて、横をつなげるような、そういう視点で、大変重要な指摘であると思います。

(委員) 枠組みが1から順番になっているが、2番がタイトルなんだろうなと思いました。先ほどの意見と同じですが、1番は分ける必要はないのではないかと。多様性を受け入れると書いてありますが、それが、下にどのようにつながっているのか3番につながらなくなるので。上と下がつながりません。

会長 重要テーマはある程度戦略的なところがあり、基本姿勢はすべてに共通している軸のようなイメージです。

(委員) 分けてしまうのであればもう少し書いていただきたいです。

(委員) 具体的な話はここの重要なテーマには書かないのでしょうか。これをするためにはどうすればよいのか、例えば、地域の防災力を高めるのであれば、自主防災組織が必要ですが、それはここには書かないのでしょうか。

事務局 防災に関しては、戦略的なものとして、地域防災計画もあるので、そこは書き分けをしたいと思っています。

会長 基本構想なので具体的なところは難しいかと思います。

(委員) 社会保障のことは別にあるので、それはしなくてよいのでは、という話がありました。社会保障もどこまで保障されるかわからない昨今、10年先のことを考える場合に、地域でどれほど支えあっていないといけないのかということを見ると、介護保険を2割払っているような人が3割となると、ヘルパーも使えないような状況になるので、どうやって地域が支えあっていくのかをイメージしておかないといけないと思います。

会長 日本全国同じ様な問題がありますが、制度で抜け落ちているところ、弱いところについて、NPOなどを育てて、より安心感を深めていくことが、今いろんなところで動き始めています。まったく触れないというのは問題になると感じています。

(委員) 現役世代を増やしてお金をみんなで負担してということになると思います。

基本構想でそういうことまで書けるのかということですが。

会長 制度については何も言えませんね。

(委員) 現役世代をいかに増やすかをやっついていかないといけないと思います。

会長 原則は今のところにつきますが、手をこまねいて待っているわけにもいきません。ただ、そういうところに豊岡が一步踏み出すということで、共助の仕組みをまちの中で作るということもありえると思います。難しいとは思いますが、基本構想でそれをどのように書くのかということも課題かと思えます。

副会長 今おっしゃっていることは福祉計画の策定が同時に進行していると思うので、その議論になると思います。豊岡市と一緒に地域福祉計画を作ることになると思います。

(委員) 地域の支え合いということです。家庭や家族が支えあう。

会長 答えはないので。

(委員) 私は福祉計画の委員ですが、実際問題、100 ページ以上の資料であり、一般の人が読んでも分かりません。結局、すべてコミュニティに絡んできて、コミュニティの立ち上げもやっています。「防災、まちづくり、人づくり、福祉」の4項目が出ていますが、市から一度もこれをやりましょうという話はありません。「お任せします」となっています。福祉は待ったなしなので、5年先ではなく、実際は最終的に誰がやるのかという話になりますが、そこには触れていません。連携を取ってということで終わっています。福祉も色々な困難な問題が並んでいます。基本構想というタイトルからすると、具体的になかなか見えてこないような言葉が多いので、10年後はこんなふあっとしたことで良いのかと、不安を感じています。

会長 事務局としてはなんとか現状を脱することができないかということで、プロジェクトを出しましたが、基本構想なのでどこまで書ききれぬかということになります。第一次原稿まで見せていただくと分かると思いますが。

(委員) 今、我々が決めようとしているのは、基本構想の核となる考え方を決めるというのが優先なのではないかなと思います。形式はおそらくついてくると思いますので、正直、今課題がそれぞれの分野であって、それが改善されていくかといえばそんなことはありません。極端な話をすれば、何を捨てるのかを基本構想に入れていかざるを得ないのではないかと思います。どういう風なものをもって、基本的にはここに注力していくということ、そこを基準に課題が山積みされていくのを、この判断でやっついていくんだということを触れないといけません。それによって、各基本計画や実施計画ができてくると思います。個別に入っていくと收拾できないと思います。何を重要視して、何を捨てるのか。その指針を決めることしかできないと考えています。

会長 基本姿勢のところ哲学として書かれていて、その哲学の元にプロジェクトを動かしましょうということですね。

(委員) 経済、防災等、それぞれの問題を解決するうえで、どういう姿勢で次の12年

間に臨むのかを決めるのでは。

会長 基本姿勢のところ、このあたりももう少し充実していったほうがいいのではということでしょうか。

(委員) 充実というか明確に。

会長 これがあることで、下の重要テーマも姿が見えてくると思います。

(委員) 資料3のピラミッドが逆ではないかと思います。今は基本構想を決めています、実際は施策の課題を基本姿勢に合わせて取捨選択して基本計画に落とす、その判断基準が明確になっているということだと思います。

会長 一言でいうと、計画はできるだけ核の部分だけ作っておいて、後は現場でということですね。非常に面白いです。ひとつの計画のあり方を大胆にご提示いただいていると思います。

副会長 おそらく、実施計画は基本構想をみて行うので、(委員)が言われたことはしている。

会長 重要テーマとして位置づけてしまうかどうかだと思います。

(委員) 「基本姿勢(3)未来への責任を果たす」とありますが、農家で息子が帰ってくることはあっても農家を継ぐのかというのとは違います。農家を今やっている人たちは一生懸命やっている人と、そうでない人の両極端です。今は、ほとんどお年寄り、今の代で農業をやめるという話は結構あります。もう少し農家のことを書いていただきたいです。野菜づくりはなかなか難しく、耕作放棄地も結構出てきています。

会長 日本の地方ではかなり重要な課題となっています。養父市では独自の制度を作っていますが、未来の責任を果たすというのと、挑戦ができるというのを紋切り調ではなく、うまく表現していただきたいと思います。

(委員) 耕作放棄地は放っておいたら林になってしまいます。

会長 そのあたり、プロジェクトに入れられれば。

(委員) 抽象的であったり具体的であったり、何を話し合っているのかわからなくなってきました。

会長 構想を議論するときは難しいです。具体的になると個別計画だし、空中戦すぎるとどこでも通用してしまうような内容になってしまいます。

(委員) 「これ!」というのを決めることが大事なことだと思います。「あれもこれも」は無理な時代になってくるという話がある中で、大きなテーマを決めないといけないのはつらいことだと思います。

会長 まさしく、何を捨てるのか、という話です。資料3の三角形が小さくなっています。重要テーマに入らなければ、外れるということだと思います。

(委員) 基本構想の根底にあるのは、「人口減少で経済が縮小するなかで、下り坂をゆっくりおりて行く」ということですか。

(委員) それは、これから決めることだと思います。豊岡・城崎は上を向いているので、下り坂をおりていくのではなく、福祉よりも経済を優先させるとか、そうではな

く、これからは下り坂をおりていくので、経済優先ではないやり方を見つけるとか、将来の投資のために福祉に力を入れるとか、その判断基準となるものをここで決めるのだと思います。

(委員) 基本姿勢を見ても夢も希望もありません。若い人たちがこれを見て希望をもって豊岡市に来てくれるのかというのが分からなくなってきました。坂の上の雲を目指して行きたいと個人的には思っています。

会長 全体をカバーした形で構想があります。思いとして、挑戦ということにウエイトがあるほうが、若い人たちに魅力があると思います。これがなければ若い人は集まってこないと思いますが、高齢社会のなかで、安心して暮らし、世界の中で羽ばたくようなことも必要だと思います。なかなか難しいですが。

(委員) 福祉について地域の意識、住民の意識を持っていないといけないし、それがもう少し入っていたらいいのではないかと思います。お互い様という意識があるとより良くなると思います。

会長 福祉はお金がなくなって、政府は一旦、外部の専門家をお願いしていたものを、もう一度家の中に戻そうとしており、ここで色々と課題が出てくると思います。意識とか、価値観をもう一度作り直すというか、創造するという、それはたぶん広く薄くビジネス的な要素をこの中に取り込んできて、この地域の中で作っていくことが大切です。想像もしなかったような方法で、国の制度に加えられれば良いですが、基本構想のこの会議でそれを決めるのは難しいです。専門の部署に任せるしかないのでは。

(委員) コミュニティというなかで、市民一人ひとりが孤立しないように支えあいながら、助けあいながら、やっていかないといけないということはよく分かります。私は地に足を着けた教育が重要だと思いますが、大交流というと、世界のことばかりになるのでは。

(委員) この資料を見ると、「どんどん豊岡がんばっていきますよ」と前向きにしか見えていませんでしたが、縮小していきながらもちやんと拾い上げていくということが重要だと思います。

会長 事務局どうですか。

事務局 メリハリをつけていくことを7つ示しており、そこで豊岡らしさを出しています。縮小という言い方もあるかもしれませんが、選択と集中ということで、強めていくことを示した計画にしたいと思います。現行240ページのものから30ページくらいものにならないかと思ってまして、重複する部分は個別計画で示すことを想定しています。

会長 地域の政策とか、地域の経済について仕事をしており、昔からこういう会議に出ているが、昔はびっくりするような政策でイケイケの計画がいっぱいありました。かつての総合計画の人口を足し、合わせるとビックリするようなことになったものもあります。

その視点から見ると現実的という印象ですが、ただ、一市民から見るとまだイ

ケイケの要素があるということは気をつけないといけないと思います。

また、一方で負の要素を見せすぎると、みんな住みたいとは思わなくなりますので、そのあたりは未来、多様性、挑戦といった質の部分で勝負することで良いのではと思います。

(委員) 負の意味でということではなく、これまで議論してきた内容が、どこに反映されている分かりません。

例えば、子どもたちが帰ってこない問題とか、いろんな議論が、基本姿勢で平凡なものになってしまっています。項目から議論したほうがよいのではないのでしょうか。多様性とか責任とか書かれても、何をしてよいのか分かりませんし、目指すべき将来像をしっかりと見せて、利便性もあり、田舎の豊かさもあるとするとか、目指すべき将来像のキャッチフレーズは、最後で良いが将来像を決めて、その上で個別テーマの見直しをいた方がよいのではないのでしょうか。

会長 事務局には、この会議での議論がわかるようにして欲しいと常に申し上げています。その辺りは3列目の意見等でまとめていただいていると理解しているが、なかなかダイレクトに計画に反映させるのは難しいと思います。重要な表現等、ご意見は直接事務局に伝えていただきたいと思います。

(委員) もう少しそういう議論から始めたほうがよいのではないのでしょうか。

(委員) 豊岡として質というのは何なのかをちゃんと話し合ったほうがよいと思います。異なる価値観をすりあわせて、豊岡はそういうことを目指すというのが、共有できていないので、バラバラの価値観で話し合っている気がします。

会長 この会議では、基本姿勢、この4つを抽出するプロセスをこれまでやってきたという理解です。これはこれとして否定もしていませんが、この中身について共通の認識にしましょうということになってきていますが、これは10人いたら10人の意見があると思います。

(委員) アンケートでは、20年以上住んでいる人が85%もいて、豊岡での暮らしを楽しんでいる方が半分います。取捨選択しながら、あまり総花的ではなくて、絞り込んでいければいいのかなと思いました。

副会長 あまり具体的に書いてしまうと、仮に市長の意見と違ったらどうするのかとなるため、構想は構想として考えていくことにしてはどうでしょうか。

(委員) よく分からなかったというのが感想です。豊岡に住みたいという方が60%というのを見てすごいと思いましたが、ほとんどが60代以上です。なので、若い人が住みたいような町にしていけないといけないと思います。戻ってきてくれるような、そして、経済も発展するし、担い手も増えるというようなキーワードは「人」だと思います。

(委員) アンケートには、外国人の方は対象に入っていません。この豊岡の計画、これから12年間で考える中で、人は減るが外国人は増えます。豊岡でも外国人が増えますが、重要なテーマのなかで外国人がまったく出てきていません。多様性というところで少し含まれていると思いますが、次の計画で外国人の取り組みを

しやすいような記載にさせていただきたいと思います。プロジェクトになっていないと思います。

会長 先日、ニュージーランドに行ってきましたが、すごい勢いで中国人が増えています。住みやすい都市として世界に出て行けるような、そういう町にしてほしいと思います。豊岡が世界のランキングに入ったら面白いです。

(委員) 基本姿勢が重要なテーマのなかにそれぞれ組みこまれないといけないのではないかと思います。

会長 外国人のキーワードをどう位置付けるかは、次回で。

～ 事務局から資料3の説明 ～

(委員) 基本構想も十分に意見が出されていない中で、これをどうですかといわれても困ります。従来の基本計画になるものを市政経営方針にすることと、議決をとるか、とらないかというのをこの審議会で見るところなのかよく分かりません。市長が決めたらいいのではないのでしょうか。

事務局 形式的なことではあるが、異論がなければこの会議で了承いただきたいということですが。

(委員) 基本計画の議決をとる、とらないは別の話ではないかと思います。

事務局 確かにその部分ではありますが、これまで基本計画は網羅的な計画であったが、今回は、行政側が責任を負ってやっていきますよという形に変えていくことに対するご意見をいただけないか、ということで投げかけさせていただいています。

会長 柔軟に変化に対応できるようにするのは良いと思います。

(委員) 個人的にはそれで良いですが、市長が判断すれば良いのでは。

事務局 諮問を投げかけているので、それに対する提言を委員会から出していただくこととなります。「する、しない」は最終的には市長判断となります。

市長が判断する上での後押しとなるものとして審議会の皆さんの意見をいただきたいと思います。

(委員) 合意的ですよねということ。

(委員) 一番下の実施計画を廃止することに対して、異論がないかということでしょうか。

(委員) 市政方針の前段の説明が必要だと思いますが、筋が違うと思いますが、了承します。

会長 一部答申についてはご理解いただいたということで、答申を行います。

5. その他

なし

6. 一部答申 ～ 会長から市長へ一部答申 ～

市長 皆さんありがとうございました。

これから先中身を盛り込んでいただきますが、これまでの勢いを持って意見を出していただけたらと思います。抽象的な表現であるように見え、非常に大きな変革を求められるようなことであると思います。行政の進め方について、「戦略性を持つこと」と「戦略を実施するにあたって、協働性を実のあるものにする」という提言をいただいたと思います。関係を持つ人たちと行政が同じ立場で作り上げていくという協働が本当に求められていますし、自分たちの経験として感じているところでもあります。新しい総合計画は、市政経営方針ということになっています。

議論の経過も職員のほうから報告を受けています。多様な、そして全体として成熟した大人の議論をしていただいている、明確な目標を思い浮かべて議論をしていただいていると思います。この方向で議論を重ねていただければと思います。私自身はローカル&グローバルを言っています。そのことが世界で輝くことにつながり、美しいまちであるとかいうこともあるでしょうが、世の中には様々な価値や文化があって、尊敬や尊重の気持ちをもって付き合っていくこと、それが世界に通用するローカルであるだろうとも思っています。

社会包摂を考えても同じですし、「成長するんだ、高いものを目指すんだ」ということではなく、「成熟に向けていければいい」といった具体的な言葉を通じた議論をしていただければと思います。

会長 議会の議決を経ないで進めるのは、機動力、柔軟性の面で非常に重要であるということです。制度的に審議会で審議するのかという話もありましたが。

(委員) 市政経営方針というのは個人的にも合理的であると思うが、従来、基本計画は、議会にかけていたので、それをこの会議で審議するのはどうかということをご指摘しました。

会長 この会議では、建設的な意見が出されています。

市長 JAXAが宇宙飛行士を選ぶときの選び方に関心を持っています。他人の失敗が自分の得点にならないチームを作らないといけなくて、自分が失敗をすると他人の得点になったりすることがいじめの背景になります。仲間が落ちていくと何もしなくても自分が優位になってしまいます。そういった社会を変えないといけません。失敗を補ってチーム全体のパフォーマンスを上げていかないといけないのが宇宙です。つまりそういうことも踏まえたうえで、仲間として市役所としても、このまちとしても、そういうことをしていかないといけないと思っています。社会包摂でも「出番がある」のが非常に重要です。そういうような理念を掲げられたら良いと思っています。

事務局 今回は、来年1月、今日いただいた意見を含めて事務局でまとめ上げたいと思います。なお、意見があれば、電話、メールでいただければと思います。日程調整は後日します。

7. 閉会